





とうく九河々 康保二年十月六日 行幸詩 聖飛兼舟輕とく

行幸 細 蔡邕云天子車駕所至見令長三老官属親臨朝作樂賜以食帛民爵有級或賜田
相故謂之幸 晋灼曰民臣被其德以為徽倖也又顏師古云幸者可慶幸也故福喜之事皆
稱為幸

試樂と云云 河津女の武也 花津女は八試樂調樂りてきて 幸亦の不見と

よび付の武樂由裏 河内官譜云曲兼和津時大納言良岑安世朝臣奉勅命作此

持依勅改盤波調但詠 小野堂朝臣作詠と八條の中いづれも事也

詠曰 柱殿迎初歲 桐樓早午媚 剪花梅樹下 蛭燕盡梁邊

舞裝束 青色袍表袴 蒲菖深下襲 裏蒲菖 大海賦半臂也

よてゆゆる 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

の才九之 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

鳥大論 細 翻譯此本抄聲 鳥大論云在殼中未出發

色微妙 勝餘鳥正法念經 出妙音声表音若天若人

緊那羅 等能及者唯除 如來音聲何聖主天中

天迎陵頻伽聲 法華經 唐大教鳥此鳥鳴時音生

嘯苦空 我常樂我淨也 和秘くわんごんといふは各

くく 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

の 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

法 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

ま 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細の曲のりて 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

細 細 幸盤本のやうにありては 幸盤本も下捨てては

母方ハ三月... 河物忌全日祖父祖母又...

母方ハ三月... 河物忌全日祖父祖母又...

母方ハ三月... 河物忌全日祖父祖母又...

母方ハ三月... 河物忌全日祖父祖母又...

母方ハ三月... 河物忌全日祖父祖母又...

母方ハ三月... 河物忌全日祖父祖母又...

母方ハ三月... 河物忌全日祖父祖母又...

母方ハ三月... 河物忌全日祖父祖母又...

胎もはく... 胎もはく... 胎もはく... 胎もはく... 胎もはく...

いもわび... 細六葉の山鳥... 細六葉の山鳥...

いもわび... 細六葉の山鳥... 細六葉の山鳥...

いもわび... 細六葉の山鳥... 細六葉の山鳥...

いもわび... 細六葉の山鳥... 細六葉の山鳥...

いもわび... 細六葉の山鳥... 細六葉の山鳥...

いもわび... 細六葉の山鳥... 細六葉の山鳥...

いもわび... 細六葉の山鳥... 細六葉の山鳥...

いもわび... 細六葉の山鳥... 細六葉の山鳥...

胎もはく... 胎もはく... 胎もはく... 胎もはく... 胎もはく...

河海具取要書之
 文武天皇慶雲元年甲辰二月
 此年天下諸國疫疾百
 性多死始作土牛始追天
 德御記云今年愁嘆
 此依不備瘵鬼云沮柳
 司

しらまのせま
 あかあとして赤肉のまね
 ひとまふ

わさけり
 まのくせをうけて
 一向はまなかくて髪ゆる
 うまはくそまねと雲の
 かまら

これいけ
 よこそハ男とりら
 とらん

まはつと
 さげことハハと男も
 りしとこひまらまふ
 年のめまる

例のうら
 のうら
 心はわらぬ
 を柳

とどろくとあがりたりげよ
 人のあまごめゆるね
 とらん
 てあま
 り
 と
 つらひ
 十
 わかりぬ
 の
 きて
 せ
 せ
 せ

の
 び
 ら
 う
 ま
 と
 今
 今
 の
 人
 例

はしりてあふふ 元
夜ハ申くよと毎りまふ
て二日の約
名うらこの内帯 細
花うらこの内帯はま
世中へ名をうらこの
内帯ありてあつち中
てまてまねまこれ朝日
てうらこの内帯はま
りまてまねまこれ朝日
今ま昔名のうらこの
落花飛鳥通天を名
をゆめりし

これの内帯はま
細の内帯はま
三月中て法法敷て文
人とて待と作の語
あくるまま上并執柄赤
の袍とまま保元信重
行てははははははは
所は内帯のまま事源
ははははははははは

海うらこの内帯 細
りまてまねまこれ朝日
てうらこの内帯はま
りまてまねまこれ朝日
今ま昔名のうらこの
落花飛鳥通天を名
をゆめりし

細の内帯はま
ははははははははは
てうらこの内帯はま
りまてまねまこれ朝日
今ま昔名のうらこの
落花飛鳥通天を名
をゆめりし

ははははははははは
てうらこの内帯はま
りまてまねまこれ朝日
今ま昔名のうらこの
落花飛鳥通天を名
をゆめりし

ありてうらこの内帯はま
ははははははははは
てうらこの内帯はま
りまてまねまこれ朝日
今ま昔名のうらこの
落花飛鳥通天を名
をゆめりし

おもしろい人のあひまうと
推考とやせん人のあひま
わうとやせん人のあひま

おもしろい人のあひま
推考とやせん人のあひま
わうとやせん人のあひま

おもしろい人のあひま
推考とやせん人のあひま
わうとやせん人のあひま

おもしろい人のあひま
推考とやせん人のあひま
わうとやせん人のあひま

おもしろい人のあひま
推考とやせん人のあひま
わうとやせん人のあひま

このころし内あまの
盆まつりのぬくこめてく

つれねしより明書

細保^{ほたけ}る^るこし^この^の母^{はは}さ^さか^かる^る人^{ひと}
と^とす^すち^ちら^らい^い尺^{はかり}を^をさ^さす^すの^の
か^かさ^さの^のあ^あま^まお^おひ^ひい^いふ^ふを^を
し^しら^らぶ^ぶて^てる^るさ^さむ^むや^やら^らと^と
の^のさ^さめ^めは^はん

ひらり^{ひらり}う^うも^もう^うけ^けき^き
も^もし^しる^るを^を表^{あらわ}せ^せし

細^ほじ^じ緒^{じゆ}の^のつ^つき^きあ^あめ^めし^し
如^{ごと}切^{きり}如^{ごと}藤^{ふぢ}如^{ごと}秋^{あき}如^{ごと}麩^ほ如^{ごと}蘇^そ如^{ごと}麩^ほ如^{ごと}麩^ほ如^{ごと}麩^ほ
備^{たつ}考^{こう}赫^{くつ}宣^{せん}宣^{せん}宣^{せん}宣^{せん}宣^{せん}宣^{せん}宣^{せん}宣^{せん}
文^{ぶん}遊^{ゆう}あり^{あり}師^しさ^さあ^あく^くよ
あ^あま^まの^のあ^あま^まお^おひ^ひい^いふ^ふを^を
し^しら^らぶ^ぶて^てる^るさ^さむ^むや^やら^らと^と
の^のさ^さめ^めは^はん

秋^{あき}は^はり^りう^うも^もう^うけ^けき^き
ひ^ひら^らり^りう^うも^もう^うけ^けき^き
し^しら^らぶ^ぶて^てる^るさ^さむ^むや^やら^らと^と
の^のさ^さめ^めは^はん

あ^あま^まの^のあ^あま^まお^おひ^ひい^いふ^ふを^を
し^しら^らぶ^ぶて^てる^るさ^さむ^むや^やら^らと^と
の^のさ^さめ^めは^はん

あ^あま^まの^のあ^あま^まお^おひ^ひい^いふ^ふを^を
し^しら^らぶ^ぶて^てる^るさ^さむ^むや^やら^らと^と
の^のさ^さめ^めは^はん

あ^あま^まの^のあ^あま^まお^おひ^ひい^いふ^ふを^を
し^しら^らぶ^ぶて^てる^るさ^さむ^むや^やら^らと^と
の^のさ^さめ^めは^はん

かゞいひつらんじり... 夜聞歌者宿別列... 河文君事史記云... 源氏のまぢり... 河文君事史記云... 源氏のまぢり...

夜聞歌者宿別列... 河文君事史記云... 源氏のまぢり... 河文君事史記云... 源氏のまぢり...

河文君事史記云... 源氏のまぢり... 河文君事史記云... 源氏のまぢり...

河文君事史記云... 源氏のまぢり...

河文君事史記云... 源氏のまぢり...

河文君事史記云... 源氏のまぢり...

河文君事史記云... 源氏のまぢり...

これをどうけつらうらん
孟氏の更因でよまふ
中ね思ふ
うらやと ほとや
やてりあまをとりえん
又こりぬらんやいん
くさめさるもとハ孟
とせさう河の中ねの
又けりつる所もめて
孟氏のねつらまよ
あや
すりれ
細きりや
修理を
は内ねまをくせ
くと思ふ 師内ねの
やう
中ねあま 修理を
孟氏のねまよ

しらににれまうけつらうらん
うらやと ほとや
まじりて 其後の
あま 風を
けりねまを
かねだや
ねねぬ
とねあひ
の
あま
つ
り

くのかさ
何衣通
せう
がよの
てま
さ

らん
ー
お
の
と
わ
ま
れ
の
け
け

風流はねま
人あ
うの
人
け

かこりたり
孟鳴呼 呼えらるる
らん

孟 殆也

呼やうくたどくえん之中
ねんを孝ふ比りりそ
このあうわうやう
四倍のさぬねまよああり
まやまそりかとりく
あうらうらうらうらう
風隊ふもありをれえ
うらうらうらうらうらう
四倍のくくくくくくく
となくうらうらうらう
呼よ中ねよ中ねよ
こいさささささささ
旅の中よさささささ

かこりたり
河鳴呼 花をくちくち
く 呼よ中ねよ中ねよ

えんて 本又中ね
さどわんとしてありそ
れとうあそりや堪也
ちよてし

孟 真実現心
万れすうかうかうかむ
これいあうらうらう
はあうらうらうらう
中ねのさかどわんて中ね
一とあうらうらうらう
孟 外りわんかむ
ささうらうらうらう
まてそあうらう
そあうらうらうらう
兼よらうらうらうらう
て扉月のうらうらう

ゆがめしてしんらんうらうらうてあふよいし

かこりたりとさえーやまうらう中ねい
紙とまわんれんれんれんれんれんれんれんれん

いんげんきんげんげんげんげんげんげんげんげん

あしてしんらと引ぬげん女あうらうらうらう

とびらいてまそすうらうはねどくわうらう

ぬいしあまうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

の人うらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらう二十のうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

はよりてひがめてゆそらうらうらうらうらう

とさされどわんくうらうらうらうらうらうらう

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

ぬその人かありとさあまうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

らひぬらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

とありきかきあやまらば
かねばしめどもとていへん
とのあやまら

つひめつ 細島のはちのひ
とわらう人さしし 師の
ろつ甲の衣とていなりつ
むらととれんとてい

ふよとていさばあやまら
細島のこぎの衣下にいへん
とよとていさばあやまら
あやまらびとていさばあやまら
よとていさばあやまら
あやまらとてい

これらとていさばあやまら
細名いへんさししめとの
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

うやむへさるるは新のち
原氏も乃あつたはよの
うとていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

つひめつあやまらりりぞんひさ
ほろつあつ中のころりあやまら
あやまらんとていさばあやまら

これらとていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

わらうとていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら
とていさばあやまら

とこの山 花城のこのこ
乃山やうつるや川のほと
うつくしくまらぬわらわ
人の回もあつたわらわ
ましくうさかぬわらわ
しつるわらわわらわ

うらぶされぬわらわ
何ぞゆめは夢の上よ
ゆめの上は人と原をわ
そとねよとんとと
原の兄弟の歌をう
だにとわり

いふとこいふとこ
何ぞも原は神といふと

うらぶされぬわらわ
何ぞゆめは夢の上よ
ゆめの上は人と原をわ
そとねよとんとと
原の兄弟の歌をう
だにとわり
うらぶされぬわらわ
何ぞゆめは夢の上よ
ゆめの上は人と原をわ
そとねよとんとと
原の兄弟の歌をう
だにとわり
うらぶされぬわらわ
何ぞゆめは夢の上よ
ゆめの上は人と原をわ
そとねよとんとと
原の兄弟の歌をう
だにとわり

みよの原子とてさうり
原成と皇子とてさうり
こそわれは中世とてさ
申してはゆめとてさ
其上人とのとてさ
いつれてそとらとて
原成とてさうり
路とてさうり
七月の原子とてさ
帝彌地皇皇后漢書
以備内職為后とて
細教つたの女中とて
まはるや也河内が
七月の原成とてさ
太右宮成温子昭宣
の内とてさ
年中とてさ
年七月の原成とて
に摸してとて
然る七月の原成とて
みよの原子とて
細天文八五九
の原成とて

うらぶされぬわらわ
何ぞゆめは夢の上よ
ゆめの上は人と原をわ
そとねよとんとと
原の兄弟の歌をう
だにとわり
うらぶされぬわらわ
何ぞゆめは夢の上よ
ゆめの上は人と原をわ
そとねよとんとと
原の兄弟の歌をう
だにとわり
うらぶされぬわらわ
何ぞゆめは夢の上よ
ゆめの上は人と原をわ
そとねよとんとと
原の兄弟の歌をう
だにとわり

源氏の男がゆきとちり子
河わらふ 冷泉院の内蔵
親をきこして入居してこ
ころとくさ人あしき
源氏執政尤大に徳有例死
解うらまうせしては折返か
氏をくして一をそま
こころんいし ころん
あつたの寵をよきとま
いし
これとまをの世らうら
わればこころひるこ位
とありしやのどわらとそ
ゆきとせたり
細い殿も徳をよきと備ふの
対置し 師友をよきと
まふとゆかうにたふあ
されと朱雀院の代わり
わればこころひるこ位
皇太后よりまふと
ひよままの 弘徽殿
こころよとまをてけ
よといひ
ひ余は 細い余年養に後

かづひちりうらぬく 細い余年の代り
防ふとありしや 冷泉院の内蔵
ころんいし 親をきこして
ころん 入居して
あつたの寵をよきとま 源氏執政尤大に徳有例死
いし 解うらまうせしては折返か
これとまをの世らうら 氏をくして一をそま
わればこころひるこ位 こころんいし
とありしやのどわらとそ ころん
ゆきとせたり あつたの寵をよきとま
細い殿も徳をよきと備ふの いし
対置し 師友をよきと これとまをの世らうら
まふとゆかうにたふあ わればこころひるこ位
されと朱雀院の代わり 皇太后よりまふと
わればこころひるこ位 ひよままの
皇太后よりまふと 弘徽殿
ひよままの 弘徽殿 こころよとまをてけ
こころよとまをてけ よといひ
よといひ ひ余は
ひ余は 細い余年養に後 細い余年の代り

細い余年の代り
冷泉院の内蔵
親をきこして入居して
ころんいし
ころん
あつたの寵をよきとま
いし
これとまをの世らうら
わればこころひるこ位
とありしやのどわらとそ
ゆきとせたり
細い殿も徳をよきと備ふの
対置し 師友をよきと
まふとゆかうにたふあ
されと朱雀院の代わり
わればこころひるこ位
皇太后よりまふと
ひよままの 弘徽殿
こころよとまをてけ
よといひ
ひ余は 細い余年養に後

ひびきこころんいし 細い余年の代り
あんのあ 冷泉院の内蔵
世人も 親をきこして
宰相の君も 入居して
れとこころひるこ位 源氏執政尤大に徳有例死
冷泉院の内蔵 解うらまうせしては折返か
のひびきこころんいし 氏をくして一をそま
まふとゆかうにたふあ こころんいし
細い殿も徳をよきと備ふの ころん
対置し 師友をよきと あつたの寵をよきとま
まふとゆかうにたふあ いし
されと朱雀院の代わり これとまをの世らうら
わればこころひるこ位 わればこころひるこ位
皇太后よりまふと 皇太后よりまふと
ひよままの 弘徽殿 ひよままの
こころよとまをてけ 弘徽殿
よといひ こころよとまをてけ
ひ余は 細い余年養に後 よといひ

